

若浜の子ども



平成30年7月26日 第4号

エジソンに学ぶ

7月11日(水)いのちの日 校長講話より



先週、5年生の守屋美結さんが糸電話の研究の発表をしてくれました。電話の発明をしたのはグラハム・ベルということになっていますが、実はいろいろなものを発明した発明王エジソンもベルと同じ頃電話を発明していました。

今日はその発明王と呼ばれるエジソンについてお話します。エジソンは今から171年前アメリカに生まれました。子どもの頃のエジソンは何でも「なぜ？ どうして？」と質問する子どもでした。8歳で小学校に入学してからも「2+2が

なぜ4なの？」とか「赤いリンゴと青いリンゴは別のもだから合わせて数えられない。」と言う子どもでした。あまりにも「なぜ？ どうして？」と先生を質問攻めするので、困った子ども扱いをされ3ヶ月で小学校をやめることになってしまいました。その後、元中学校の先生だったお母さんから勉強を教わり10歳頃には大学生が読むような難しい本をすらすら読めるほどになりました。12歳頃から新聞売りの仕事をしてお金をためました。そして15歳の時には中古の印刷機を買って新聞を発行しました。その新聞は、地域のことが詳しく書いてあったので人々からとても喜ばれました。エジソンはできあがったおもちゃで遊ぶよりも、人のためになるものを作ることが好きな子どもだったのです。

17歳の時に勤めていた鉄道会社で駅から駅に電気信号を送る仕事をしていたときには、人が寝ていても自動で信号が送られる機械を発明しました。エジソンは人々の生活の中から、こうなったら、もっと便利になるだろうと考え発明に取り組みました。

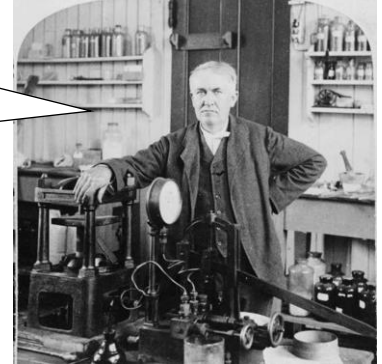
1876年29歳の時、持っていたお金を全てつぎ込んでアメリカのメンロパークというところに研究所を作りました。ここで電話や蓄音機、白熱電灯の発明をしました。電話の発明ではグラハム・ベルに負けてしまいましたが、この電話の研究の途中で音を記録する技術を発明しました。その頃の人は音を記録するなんて考えたこともなかったので、エジソンを魔術師と思った人がいたほどでした。ですからエジソンはメンロパークの魔術師と呼ばれました。

その後エジソンの発明の中で人々の生活を大きく変えるものができました。それは白熱電球です。それまで夜の明かりと言えばランプやガス灯のように火で明るくしているものでした。ですから火事になったり、いやな臭いがしたりしていました。電球で明るくすることができればそんな問題が全部解決して、人々の暮らしがとても便利に安全になります。しかし電球の発明は大変なことでした。10000 回以上の実験をして電

球を完成させたエジソンに、新聞記者が失敗についてインタビューしたときに「あれは失敗ではありません。私はうまくいかない方法を10000通り発明したのです。」と答えたそうです。うまくいかないことが分かったら別の方法でチャレンジするエジソンのファイトはすごいですね。エジソンは1日18時間も研究に取り組んだそうです。

私たちの今の生活につながっているこれらの発明をエジソンが生み出したことを考えると、エジソンってやっぱり天才だなあとと思います。この発明の天才エジソンが残した有名な言葉がこれです。

天才とは1パーセントのひらめきと
99パーセントの汗のたまものである。



白熱電灯の完成まで 10000 回以上もの実験をしたエジソンだから言える言葉ですね。

最後にエジソンが発明した蓄音機と同じような仕組みで音が出るレコードを紹介します。レコードとレコードにのっけるレコード針を拡大してみるとこんな具合です。

ではレコードをかけてみましょう。どうですか？ふしぎですね？

「なぜ？どうしてこの黒い円盤からいろんな楽器の音が出てくるんだろう？」子どもの頃のエジソンと同じ気持ちになりませんか？

みなさんもエジソンのように「なぜだろう？どうしてだろう？」という考え方をして夏休みの研究や工作に粘り強く取り組んで、若浜のエジソンをめざしてください。

現代生活につながるエジソンの発明

蓄音機



電 球



撮影機



電 話



電気自動車



<日本にある世界有数のエジソン博物館>

栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち 3-6-20 バンダイミュージアム内 エジソンミュージアム
エジソンの発明品約300点が展示されています。

バンダイミュージアムのホームページ (<http://www.bandai-museum.jp/index.html>)

エジソンだけでなく生き方のヒントを学ばせるには伝記の読書がおすすめです。そこで、本校図書専門員の高橋久美子さんから選んでもらいました。

<多様な生き方を学ぶために読ませたい伝記（図書室の蔵書から）>

松井秀喜(プロ野球選手) 野口英世(細菌学者) 杉原千畝(外交官) 福沢諭吉(教育者)
豊田喜一郎(トヨタ自動車創業者) 本田宗一郎(本田技研創業者) 手塚治虫(漫画家)
やなせたかし(絵本作家) 黒沢明(映画監督) 植村直己(冒険家) ヘレン・ケラー(教育者)
アームストロング(宇宙飛行士) ガリオ・ガリレイ(天文学者) アインシュタイン(物理学者)
マザー・テレサ(修道女) ナイチン・ゲール(看護教育学者) ネルソン・マンデラ(黒人解放指導者)

○年後の高校入試と今

えっ!?
うちの子まだ
小学生なのに…。

堅苦しく、あまり夢のない、あまり触れたくない話題で恐縮ですが、お許しください。

7月13日に山形県教育委員会から「公立高等学校及び県立中学校の入学者選抜における採点ミスに係る再発防止・改善策」が公表されました。その中の資料から、山形県の公立高校入学者選抜試験の特徴と小学校時代に大切にしたいことを簡単にまとめてみました。

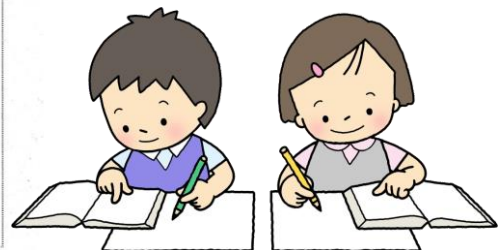
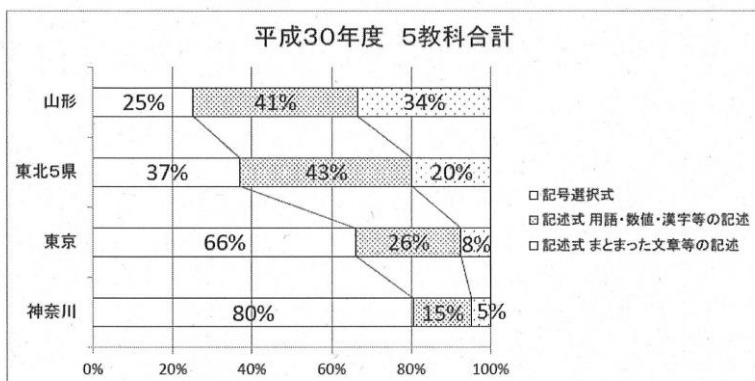
<山形県公立高等学校の入試問題の特徴>

◎ 記述式が多い。（このことが今回の採点ミスの原因の1つとしてあげられています。）

- ・記号選択式の問題の割合が、東京は66%神奈川は80%なのに対して、山形県は25%ときわめて低いことがわかります。漢字、教科の用語、数式を使って書く力を、山形県は重視しています。
- ・まとまった文章による解答を求める問題が首都圏では5~8%なのに対して、山形県は34%と高く、説明力、文章力を重視しています。

公立高校学力検査の問題内容別問題数（平成30年度）

県教育庁調べ



<採点ミスの例>

- ・漢字間違いによる誤答を正答とした。
- ・漢字の誤字があるにもかかわらず、減点していなかった。

上記2点の採点ミスの例から、入試で用語等の漢字間違いは×、文章における漢字間違いは減点対象に

なるということがわかります。これは国語だけではなく他の教科でも同様の採点ですから、漢字を正しく書けないということは国語以外の教科でも得点が下がるということです。

これらを踏まえて、小学校で何をすべきでしょうか。

＜小学校で大切にしたいこと（付け焼き刃のにせもの勉強でなく、一生ものの本物勉強）＞

- ・漢字を正しく覚えて、他人が読むことができる字を書く。
- ・正しい言葉を用いて、限られた時間で文章を書く。
- ・限られた時間で集中して課題に取り組む。

「何だ、そんな当たり前のことか。」と言われそうですが、平凡であたり前なことは大切であるにも関わらず、実際にはなかなかできません。

例えば、日常生活でも、箸の持ち方や鉛筆の持ち方、朝自分で起きて時間まで支度をする等々…、平凡であり、できて当たり前と思われることでも、できないことは案外多いものです。

平凡で当たり前のことも、だまっていたは、できるようになりません。例として挙げた鉛筆や箸の持ち方も、一度身につけてしまった間違った持ち方を直そうと思ったら、相当な時間と指導し続ける忍耐力が必要です。同様に、間違えて覚えた筆順や漢字、読めないような乱れた文字、集中力を欠いた学習態度などを短期間で直すことは、容易ではありません。

今、酒田市では小学校と中学校の教育が切れ目なくスムーズにつながるようにするためにはどうするかということ（小中一貫教育）を研究し始めています。よく言われる中一ギャップ（中学1年生の不適應）を減らすこともねらいの1つですが、1番のテーマは義務教育で身につけるべき学習内容を9年間で無理なく身につけ、充実感のある学校生活と納得いく進路選択をできるようにすることです。

先輩の先生が「学校教育は、現在から未来への架け橋だ」と言われていました。今なすべき、平凡で当たり前のことを正しくしっかり身につけるといことは、「未来へ架ける橋」の揺るぎない頑丈な橋脚をつくるということですね。

若浜っ子の活躍



第34回さわやか山形県一輪車競技大会 6/24

ペア演技 特別賞 6年 池田亜依香（若浜町） 所属：S★Link

ペア演技 特別賞 5年 長谷部末優（新橋2丁目） 所属：酒田ユニサイクル ケセラ

第46回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部サッカー大会 7/15

準優勝 若浜サッカースポーツ少年団

前号でお知らせした結果に誤りと記載漏れがありました。お詫びして訂正いたします。

訂正 市民体育祭 4年女子100m 佐々木碧唯（新橋5丁目）第3位（誤）→第2位（正）

第31回東北電力旗ミニバスケットボール大会

女子の部 若浜ミニバスケットボールスポーツ少年団第4位（誤）→第3位（正）

追加 市民体育祭 男女混合ジャンボボール運び400mリレー 第3位

